

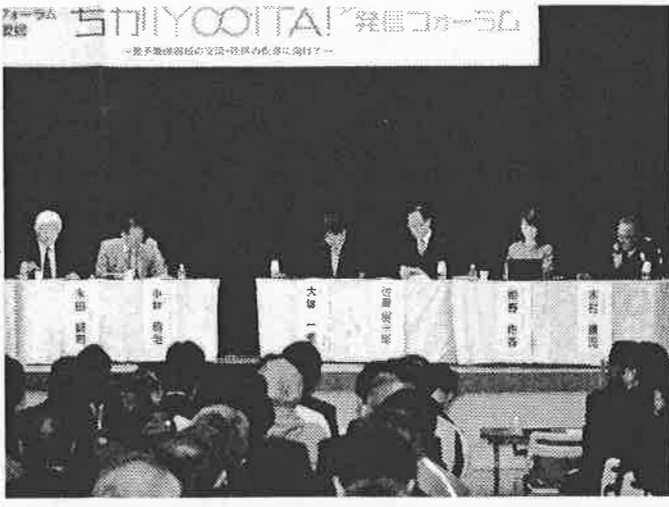
八幡濱新聞

発行所 八幡浜市昭和通
八幡浜新聞社
TEL.22-0447/FAX.22-1032
編集印刷発行人 松井一浩
[1ヵ月1,200円(税込)]

豊予海峡圏域交流連携促進を

観光客増などパネルディスカッション

近いぞ！愛媛・大分。八幡浜市民スポーツセンターで12日、国土政策フォーラムin愛媛「ちかY・O・O・I・T・A」発信フォーラム(国土交通省・豊予ふれ愛協議会主催)があり、豊予海峡圏域の交流と連携の促進に向けて基調講演や活動報告、パネルディスカッションがあった。写真。



圏域の活性化を目的として平成28年度に発足した豊予ふれ愛協議会は、愛媛、大分両県と愛媛県西予地域の3市2町、大分県中部地域の4市で構成。相互交流による物産販売やフェリー航路を利用した婚活・小学生交流イベントの開催、両地域の周遊サイクリングコース設定などに連携してきた。

大分大の姫野由香助教が地域づくりの要として一人の暮らしが地域にあり、そこで暮らしが自分の地域に誇りを持っていなければ、地域資源に気づき内発的に発信してほしいと求めた。

一方、八ヶ岳ツーリズムマネジメント代表理事の小林昭治さんは「コミュニケーションが取れる地域づくりが大事で、協議会を構成する市町が次の連携を考えたから課題を深掘し、次に持ち越さず解決しながら進むことがポイント」と助言。

住んでよし 誇れるまちが訪れたいまち

「圏域交流の育て方」

住んでよし、訪れたいまち、自らがいい地域だと思わなければ人は来ない。

ただの通過点になってしまふ。八ヶ岳では多様な人が連携し事業を推進しており、多くの人で一つの目標に向かっていく。推進体制には舵取り役が重要。

協会の役割はそれぞれ役割があるからこそ、色々とタッグを組み、地域を一つにして何をしたいのか理解してもらうことが大切。

また、観光目的の乗船では92.4%が宿泊を伴い、四国・中国(広島・岡山)在住者がどこへ向かっているかは愛媛が67.4%、大分は69.5%。フェリーが就航する港が西四国・東九州の玄関口となり、四国、中国、九州地方へ移動する多くの人を運んでいることがわかった。



観光地づくりにマネージャーは執行権限を与えられ、いかにお客が周遊し、お金をとれるかを考えて事業を推進している。観光

何度も通ってもらいたいまちにし、子や孫が住みたいまちにし、経営の支えとなる。こ

昨年7月豪雨で白杉、大分からフェリーで、命をつなぐ給水車が運ばれた。近くに隣人がいて、助けてくれる仲間もいる。これも圏域で取り組んだ一つの事例だ。

観光9割以上宿泊伴う

「フェリー利用客調査」

平成28年の協議会設立したのは1656件で回収率は7割近くに上り、有効回答数も1649件だった。集計の結果、八幡浜・別府、八幡浜・白杉、三崎・佐賀関の3航路で利用者が最も多かったのが60代。八幡浜・別府航路は歩いて乗る利用者が多く、三崎・佐賀関は車両が9割、八幡浜・

利用目的は3航路全体で観光が約4割を占め、とくに八幡浜・別府航路が観光に使われ、繁忙期の観光で初めて利用する人の割合が高かった。このことから繁忙期にリピーターを増やせば、さらなる観光振興になる。



また、観光目的の乗船では92.4%が宿泊を伴い、四国・中国(広島・岡山)在住者がどこへ向かっているかは愛媛が67.4%、大分は69.5%。フェリーが就航する港が西四国・東九州の玄関口となり、四国、中国、九州地方へ移動する多くの人を運んでいることがわかった。

昨年7月豪雨で白杉、大分からフェリーで、命をつなぐ給水車が運ばれた。近くに隣人がいて、助けてくれる仲間もいる。これも圏域で取り組んだ一つの事例だ。